

明善同窓会 関東支部 会報

発行：明善同窓会関東支部会報委員会
事務局：ジー・エフ税理士法人内
102-0093 千代田区平河町2-8-10
平河町宮川ビル5階(宮沢宛)
e-mail: meizen.dosokai.kanto@gmail.com



ご挨拶 — 今年の総会について —

関東支部会長 昭和51年卒 井上 樹彦



世界中の光景を一変させたコロナ禍が続く中、誰もがみな不自由な生活を強いられておりますが、明善同窓会関東支部の皆様におかれましては自らを律し感染防止に努められて御無事でお過ごしのことと存じます。昨年は、毎年恒例の総会・懇親会をはじめ、同期会などほとんどの行事や活動が中止を余儀なくされました。同窓生の皆様もお盆やお正月、久留米での大同窓会の際の帰郷をあきらめ、残念な思いをしている方が多いと拝察いたします。

新型コロナウイルス感染症は、首都圏のみならず全国的にもまだ収束の気配はなく、これ以上の拡大を阻止したい人類との戦いの様相を呈しており、制圧の段階までにはまだかなりの時間がかかることと見られます。この困難な時代の中、故郷や母校との絆をつなぎとめていくため皆様と知恵を集めて今年、新しい形の総会・懇親会を開催したいと考えています。第35回関東支部総会の日時は5月15日の土曜日、担当は一年進んで平成55年卒、会場は東海大学校友会館が閉館したため、同窓生の御縁で品川・天王洲アイルの第一ホテル東京シーフォートを予定しております。ここをいわばリアル、これまで同様の総会・懇親会の会場とし、あわせてこの会場からオンラインでネット中継を行い、コロナ警戒で外出できない人や出席を見合わせる人、また遠隔地の人に対しライブ配信を行います。

リアルな会は出来る限りの感染予防策を講じますが、どうぞ無理をせず、シンプルにオンラインで参加できる仕組みをつくりたいので、気軽に自宅など何処からでも参加してください。こうしたオンラインでの会を並行して開催することによって、若い卒業生がSNSなどを通じて連絡を取り合い、同窓会の輪が広がることも期待しています。ご年配の同窓生の皆様には子や孫の後輩がいらっしやれば是非、この初めての試みを広めていただくようお願い致します。どのような形でも参加感が得られ、母校愛を確かめられるような

内容にすべく鋭意検討して参ります。昨年7月、筑後地方を襲った集中豪雨で被害を受けた生徒の支援になればと、明善高校宛に関東支部から水害見舞金を送りました。苦境の時こそ、年代や距離を超えて支え合い励まし合うというのも伝統校の良さだと思っております。

会の締めくくりには、それぞれの場所から「白旗の歌」や「旧制校歌」を歌いましょう。故郷の風景や母校明善を思い浮かべながら、コロナ禍の一刻も早い収束と、元の穏やかで賑やかな日常が戻ることを願います。そして日夜献身的に難敵に立ち向かっている医療従事者への感謝とエールを込めて。

最後になりましたが皆様のご健康とご多幸を心より祈念し、2021年最初のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお申し込み申し上げます。

ご挨拶

校長 高松 大輔



会長 井上樹彦様をはじめ、関東支部の皆様には、日頃から本校並びに生徒に対し温かい御支援を賜りまして、誠にありがとうございます。また、7月の豪雨災害の際には支援金をいただきましたことに重ねて御礼申し上げます。また、7月の豪雨災害の影響で経済的に苦しい状況にある生徒への支援に充てさせていただいております。

さて、本校の近況について報告いたします。新型コロナウイルス感染症拡大により、学校は3月2日から全国一律に休校となり、休校前日となる3月1日の卒業式については、保護者の参加を各家庭1名のみとし、参加者全員がマスクを着用する等の感染防止対策の下、時間を大幅に短縮してどうにか実施することができました。

また、7月には豪雨による甚大な被害が発生しました。水害のために自宅から出られず登校・出勤できないという生徒や職員もいました。令和2年度前半は「感染症」と「天災」への対応に追われた半年でした。

しかし、このような状況下にも関わらず、明善生は力強く前進しています。生徒会役員選挙の演説会は感染防止の観点からオンラインという新しいかたちの演

説会でしたが、複数の候補者が学校の未来について、自らの考えを力強く主張しました。また、本校の伝統行事である大運動会についても、県内の多くの学校が中止する中、委員長を中心に感染防止に配慮した上での実施に向け創意工夫を重ね、見事に成功させることができました。感染防止をどのように徹底するのか、集団演技をどのようにするのか等々について議論を重ね、一旦決まった後は一人ひとりが自分の役割を全うしようという力を尽くす姿、競技中は自分のブロックだけでなく他のブロックに対しても成功を祈り声援を送る姿に、コロナ禍をともに乗り越えようとする明善生の絆を感じるとともに、明善が広く愛される所以を理解できた気がしました。

令和3年は明善にとって分岐点の年だと思っております。コロナ禍で縮小した教育活動を復活させるとともに、コロナ禍で得た経験を活かして一層大きく飛躍しなければなりません。大変難しいことだと思っておりますが、職員・生徒が一致団結し、明善の長い歴史の中でも特筆される年となるよう全力を尽くす所存です。

結びに、関東支部の益々のご発展と会員の皆様のご健康を祈念して挨拶とさせていただきます。

コロナ禍で共に生きる

同窓会会長 昭和50年卒 内村 直尚



明善同窓会関東支部の皆様におかれましては、同窓会の運営にご指導・ご鞭撻をいただいております。昨年、心よりお礼申し上げます。

昨年の第53回明善大同窓会では中止となりました。当学年の昭和60年卒諸君と馬実行委員長を始め、委員の方々とも充分な審議の上、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、開催準備が困難であり、何よりも皆さんの健康と安全を最優先に考え、苦渋の決断となりました。尚、令和3年度の明善大同窓会は再度昭和60年卒が担当し、令和4年度については昭和61年卒が担当となり、今後は1年ずつずれることになりました。

昨年から新型コロナウイルス感染症の影響により、皆さん、仕事、学修、家庭生活など、通常の日常生活を送れない状況にあり、さまざまな面で不安を抱えておられることだと思っております。今回のコロナ禍はウイルスが相手です。目に見えない敵なので、より大きな不安や恐怖を感じやすくなります。今後はコロナと共存していく必要があります。ワクチンや治療薬が開発されていますが、私たちの生活スタイルを変えることも大切です。感染防止のためには、密閉・密集・密接を避けること、手洗いやマスクを着けること、人と人との距離をとることなどが不可欠です。ソーシャルディスタンスとは身体的距離と精神的距離の両面から考える必

要があります。以前のような家族や地域、職場などの人間関係が難しくなっていますが、視点を変えれば、家族関係や職場・地域社会などの新たな在り方を問い直し、再構築する機会ともいええます。また、自分自身のこころのケアとしては、規則正しい生活リズムを維持し、リラクゼーションする時間を確保し、孤立しないように友人や家族とのつながりを保つことが大切です。懐かしい学生時代の友人と久しぶりに携帯やインターネットを通して思い出を語り合い、互いに励まし合うことはとても大切な孤立しないリラクゼーション法です。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響で先が読めない状況ですが、答えのみつかからない状況に耐えられる能力、「ネガティブ・ケイパビリティ」を養うことが人に寄り添い、共感を育む力になり、人間力を高めます。今をピンチと思わず、人として成長できるチャンスに変えてください。

このような時代であればこそ、人とのつながりを大事にして全力で立ち向かうという明善の伝統の下、様々な課題に果敢に挑戦していきたいと思っております。母校明善高校も新しい時代へと進んで行きますが、己に打ち克つ、力を尽くす、その結果、楽天の境地に至る、この「克己・盡力・楽天」の校訓を今後も心に刻み同窓生一同で共有していく所存です。

ところで、昨年夏の豪雨水害に際し関東支部より明善高校生へ見舞金を頂きまして、誠にありがとうございました。先日、私から高松校長へ直接お渡ししましたところ、大変感謝しておられました。皆様の母校に対する温かい思いが伝わってくるようで嬉しくもあり、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。今後とも同窓会会長として明善同窓会および明善高校の更なる発展に少しでも寄与出来るよう励んで参る所存です。至らない点も多々あるかと存じますが、会長を始め同窓会関東支部の役員の皆様、会員の皆様には引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げますと共に、皆様の御多幸と御健康をお祈り申し上げます。

第53回明善大同窓会中止になって

実行委員長 昭和60年卒 諸富和馬



この度、3年がかりで準備をしてきましたが、どうしようもなく中止とさせて頂きました。突然のコロナの波が押し寄せ、あつという間になにもできなくなっていました。60会のメンバーとテレミーティングにて何度も議論を重ねましたが、開催は難しいだろうと判断し、理事会に提案いたしました。本当に、悔しい気持ちでいっぱいです。大同窓会幹事制度のおかげで30数年ぶりに多くの同級生に逢わせて頂き、とても楽しい

時間を過ごすことができ、同級生80%以上の方と連絡がとれ、最高のひとときを頂けたのは同窓会の先輩方のお蔭だと感謝しております。折角ここまでやってきたのに、このまま中途半端な気持ちで終わるのは残念でしたがないと思いい、実行委員会メンバーで今年も60会がやる。と決まりました。

○日時 10月9日(土) 14時30分開会【予定】

○場所 ホテルマリタール創世 久留米

○テーマ 「く違つて、笑つて、気持ちちは青春時代」

今年はどうのような内容が可能かまだ、不透明なこと課題がたくさんあります。コロナ対策をどうするのかから決めていきます。新たな同窓会のあり方の提案になるかもしれません。どうぞ暖かく見守って頂ければ幸いです。関東支部の皆様、大変だと思ひますが、助けあいながら頑張りましょう。お体だけはご慈愛ください。思い出話を故郷久留米の街で語り合ひましょう。皆様のご来場を心よりお待ちしております。追伸 もし、今年の大同窓会が中止になる状況になりましたら、幹事学年は61会にお譲りする所存です。

3年8組女子組

昭和41年卒 笠井逸子



筆者2年6組の時

高校卒業から55年、先生方には悪いが、一番の思い出は、その後も長く交流の続くクラスメートたちだ。3年間、同じクラスで過ごした女子たちが17名だったと聞いている。全員が、芸術選択コースは美術だった。それだけが理由ではなかったようだが、3年生になると、女子だけというめずらしいクラス編成が出現した。ユニークで優秀なクラスメートが多かった。絵も歌も数学も、とびきり一流だったKさん。大学は、スパッと東京の国立女子大へ。残念ながら、卒業後間もなく亡くなられた。今でも、仲良し女子が集まると、「Kさんが生きていたら、どんな人生送っただろうね」と話題に上る。

明善は自由な校風だったから、勉強に不熱心な私などには、びつたりの高校生活を送れた。美術の時間、校外に出てスケッチと言われれば、一目散に梅林寺や篠山城に行き、作品はそこそこに、筑後川の渡し舟に乗って、向こう岸まで遊びに行った。映画もよく見に行った。

S嬢も優秀だった。1年浪人生活を送ったが、はじめの半年間は、市内でお勤めをしていた。予備校に行かなくてもいいのかな、とこちらが心配するほどだった。それでいて1年後、東京外国語大学に入学。私は福岡

の私立大学に入ったので、上京すると、彼女の品川の下宿先に泊めてもらった。学生運動が盛んな時期で、彼女も熱心で、とうとう大学は退学してしまったようだ。

Fさんも、やはりタレント豊富な女性だ。大学は被服科を専攻した。インド綿が好きで、毎年、インドまで手染めの更紗布を買って付けた。それをブラウスやチュニックなどに仕立てて売ってブティックを、杉並区で経営している。近くの会場で展示会があると、必ず顔を出すことになっているが、昨年7月の催しも、コロナ禍にもかかわらず大盛況だった。

兵庫県に住むTさんは、人形作家だ。高校3年の時、入院生活を送り、残念ながらいっしょに卒業できなかったが、大学は美術系に進んだ。卒業後は、漫画家をめざして上京、新人賞を取ったこともあった。ほかに、大学で美術を選んだクラスメートが多かった。私も一時期、美術の川原先生のアトリエに通って、木炭デッサンを学んだこともあったが、どうも才能に恵まれず、大学は結局、英文科を選んだ。

Mさんとは、大学も一緒だった。脱サラされたご主人が、福岡市内で長くうどん屋を営まれ、子育てしながら商売の手伝いに精をだされた。今では、おふたり晴耕雨読のんびり生活を、山口県美祿市の山奥で送っておられる。3年前から、彼女のお宅に、3年8組の女子仲間が「合宿」と称して集まっている。まるで修学旅行のような騒ぎになる。

古希 星空に祈る

昭和43年卒 平田 幹

明善の時ハサミをもてあそんでる私を見て友が何に使うのかと尋ねた。帰りに千曲川でスキを切って持ち帰るのでと答えた。家の近くを流れる高良川を千曲川と言いついて洒落込んでいたのである。

その千曲川が一昨年決壊した。果たして千曲川は「暴れ川」だったのか、いや遊子悲しむ静かな流れの川のはずではと検索ボタンを押した。

あれこれクリックをしていると、私は思わぬものを発見した。鳥崎藤村の「千曲川旅情の歌」である。最初の2行はこう書いてあった。「昨日かくてありけり、今日もまたかくてありなむ」。この有名な詩が私を東京へと駆り立てる一因だった。もしこのまま久留米にいたら多分私の性格上この詩のように、何の変哲もない亡羊とした人生を送る羽目になるのではと危惧した。

幸いなことに家庭事情も私に味方した。卒業の年には、姉は長崎へ、母は渡米が決まっていた。父は早くに他界していたので自由は我にあり。「東京で予備校へ」と宣言し寝台列車みずほ上段の人となった。案にたがわず、東京は驚きの連続であった。新宿東

口ではシンナーがたむろし、深夜の歌舞伎町の人混みを友人は「毎日が水天宮さんのごたるね」と。しかし、時は瞬く間に流れた。あれから半世紀、確かに飽きの来ない人生は送れたかと思う。小さな山と深い谷の繰り返しは心電図の如く繰り返された。明日のコメはあのかと四回の転職、明日の命はと3回の入院。それを凌ぎきる言葉は「ダーティーハリー」のキャラハン警部から学んだ。「泣けるぜ」。

しかしこう思う事もあった。「主、イエスは何故この私の苦境に沈黙を保たれるのか?」と。されど遠藤周作先生は神父にこう語らせていた。「主、イエスはあらゆる民をもパライソへと導かれる」と。

昨年私は古希を迎えた。ペランダに出て夜空の星を見上げてこう叫んだ。

「イエス様。わたくしめをパライソへお導きになられるのは今少しお待ちを。私はまだ厚生年金を五年分しか取り戻してはおりませぬ。どうか どうかいましばらくの御猶予を」。コロナ禍に祈りは通じたと思うのだが。

税理士になってみて...

昭和46年卒 本村龍史

私は、昔からテレビ大好き人間なのだが、昨年の新型コロナウィルスでの自粛中などケーブルテレビの時代劇チャンネルを一日中見ることもあった。特に好きな時代劇が藤田まこと主演の「剣客商売」と、「いつの世にも悪は絶えない。その頃、徳川幕府は『火付盗賊改方』と言う特別警察を設けていた。凶悪な賊の群れを容赦なく取り締まるために、得意の機動性を与えられた、この火付盗賊改方の長官こそが長谷川平蔵、人呼んで鬼の平蔵である。」のナレーションで始まる「鬼平犯科帳」である。江戸時代後期、11代将軍家斉、老中松平定信の時代である。天明7年から寛政7年までの8年間にわたり、火付盗賊改方を務めた鬼平こと長谷川平蔵信宣(ノブタメ)は、若い頃「本所の鏡(テツ)」とか「鬼」などと呼ばれる放蕩無法者であつたらしく、一度は盗賊の一味になりそうになる。

この無法者が後に盗賊を取り締まる役目を務めるとはだれも予想しなかったであろう。しかし、鬼平の活躍は若い頃の無法時代を抜きには語れないのである。盗人から「犬」と蔑まれる密偵や、協力者による当時の知り合いがたくさんおり、彼等が命を懸けて鬼平に仕えるのは、彼らの心中を察し、彼らのしがらみを理解しているからであるし、また、その当時の生活が鬼平独特の勘働きを随所に見せているからである。鬼平犯科帳は昔、今の中村吉右衛門の父親である松本幸四郎が演じていたし、丹波哲郎や萬屋錦之助が演じているのだがどうも似合わない気がする。それが証拠にほとんど単発に近い、それなのに現吉右衛門の鬼平

が一番しっくりくるからこそシリーズ化され今も時々特番として新作が放映される。

ところで話のスケールは大分小さくなるが、明善卒業から40年程前の27歳頃まで、私は、学校へも行かず、麻雀、パチンコに現を抜かず怠け者で、プーターローの様な生活を送っていた。金がなくなればアルバイトをするという生活であった。仕事の内容は、レストランのコック、喫茶店のウェイター、スナックのカウンターマン、コマースィアルファイルム制作現場の照明、ペンキ屋、大工の助手、ビル貯水タンク清掃、魚屋、市場調査、建売住宅を売ったことも有るし、今で言う女子大生パブの雇われマネージャーみたいな事もやった。高校の後輩達を誘い、久我山の1,000坪以上はある遊休地の草刈りを請け負ったり、中には、東アジア反日武装戦線によって爆破された間組青山本社の跡片付けなどもあった。やらなかった業種は無いのではないと思えるほど多種多様だった。当時は単にアルバイト料が高いものをやっていたにすぎないのだが、後に、私の税理士の仕事にこれ程役立つとは思ってもしなかった。

私の事務所では、たくさんのお仕事を営む個人法人の関与先があるが、今までにやったことが無い業種が少ないのである。今迄で一番驚いた仕事は、税務署から税理士が付いていない納税者に帳簿への記帳の仕方指導の依頼が有るのだが、その時出会った人に、一見悪役プロレスラーの様な風貌の人が居る。恐る恐る話を聞くと「かいとりや」と言う。「買取屋」とでも書くのだろうか。仕事内容が予想出来ないもので、尋ねると、「つけ取り屋」ですとと言う。クラブやバーの「つけ」つまり売掛金を回収し手数料を受け取るというのである。クラブやバーの「つけ」はその客の指名ホステスが回収の責任を持つので、中には払わない悪い客もいて取れないればホステスが負担することになる。そこで買取屋の出番となる。実際は回収した売掛金をホステスと買取屋で折半するのである。当然、簡単に取れる事も有るだろうが、相手が暴力団であったり、悪質な客であったりと簡単には取れない。そんな時、回収に出かけていると、相手が10円づつ支払う者が出たそうである。そこで、相手が音を上るまで毎日10円を受け取りに通い続けた話など聞くと私にはとても想像できない世界であった。しかもそれらの取引をきちんと帳簿に整理して記録してあった。こんな裏稼業で、きちんと確定申告をしていると聞き、当初外見から恐ろしく感じていた印象が嘘のように消えて、とても穏やかな人柄に見えてきたから不思議なものだ。何故こんなにきちんと申告するのかと聞くと、子供が小学校に入るので、税金もきちんと払っていたいと返事があつた。ほんの2、3度の付き合いだったが強烈な印象が残る、嬉しかったのを今も覚えている。

今コロナ禍で飲食店など悲惨な状況であり、この際

廃業しようという中小企業も後を絶たない。税理士が力になれることは少ない。その上、私自身も引退を考

体重減で快適生活

昭和48年卒 津福一成

数年前、階段を上ると息苦しい感じがあり、体重が78キロに増えていました。通常73キロだったので5キ

まず最初に夕食時のごはんなど炭水化物を抜くようにしました。最初はものたりない感じもありましたが、慣れたら問題なく実施できるようになりました。

ストレッチ

バドミントンの更衣室で、結構スタイルのいい仲間が着替えているとき、下腹が出ているのを見て、自分もそうだと思い、ストレッチを始めました。

毎日、腹筋運動と腕立て伏せを。体重はあまり変わりませんが、腹筋が少し見えるようになりました。

16時間食べない

マンションの理事会で一緒だった方のご主人が帰宅時一つ前の駅でおり自宅まで歩くようにしたら20キロ

オフィスが浜松町の新橋寄りなので、行きは新橋で降りてオフィスまで歩き、帰りは横浜で降りて桜木町

毎日でもなくてもよいということ、休日も含めできる日にやっています。

結果

現在、体重66キロ代で、ベスト体重65キロもすぐそこになりました。体調もよく、仕事にプライベートに楽しんでいきます。

兄の夢

昭和56年卒 芝 清道

明善高校3年、今から40年前1981年1月6日、大好きな兄が交通事故で天国に召されました。共通一

廻る事3日前、東京の玉川大学工学部に在籍していた3つ上の兄が、大学受験の祈願の為、太宰府天満宮

僕が呆れていて、そんな馬鹿げた夢みてどげんすつと？東京は好かんけん、地元久留米にずっとおつて、

それからお通夜の時に東京から大学の仲間がたくさん駆けつけて、一晩中今までやってきたミュージカルの曲を歌ってくれて、兄がどんなにいい奴か、凄いい奴

僕はこの仲間達に猛烈に感動してある決断をします。兄の大学のサークルに入って、その後劇団四季に入ると。兄の夢は僕が引き継ぐと。

それからは歌も踊りも芝居も素人の僕には本当に大変で、何度も挫折しそうになりました。ですが、やり続ける事が兄と共に生きる事だと信じて、やるっきゃないと肝に命じ、なんとかオーディションをくぐり

勢いで此処までできましたが、この世界に入ると本当に良かったと思つてます。人生どうなるかわからないものです。

今ミュージカル界はコロナ禍で大打撃を受けて、今だ先行きが見えませんが、劇団四季は人生は生きるに値する、人生は素晴らしい。東京一極集中でなく全国に演劇を届けると理念を掲げて頑張つてます。僕も一人でも多くのお客様に感動を届けられるよう克己、盡力、楽天を持って諦めずに精進して参ります。

明善高校のOB、OGの皆様応援して頂けたら幸いです。

沖食堂のノスタルジー

昭和61年卒 尋木浩司

昨春秋、同期のライングループに沖食堂が10月末日で閉店したというニュースが投稿された。投稿主は、



懐かしの一杯

1955年創業の沖食堂が65年の歴史にいったん終止符を打ったわけであるが、今年の5月に新装オープンし、十数年前に無くなった人気メニューの「焼きめし」も復活する予定するというこ

同期のライングループには、「2日連続で食べに現

沖食堂閉店に関する西日本新聞のインターネット記事には、「近くの明善高卒業生の50代女性は、『高校生

久留米には、数多くのラーメン店があるが、明善卒業生が沖食堂の濃厚かつ臭みのないスープ、柔らかい麺が特徴のラーメンに特別の想いを抱き続けるのは、

海外での安全対策 平成2年卒 米倉和宏

仕事柄、海外出張には年に10回ほど行きますが、日本ほど安全な国はない、と常々思います。多少危険な地域でも仕事ですから行かないわけにもいかず、いつも緊張感をもって出かけます。その中で体得した私の安全対策をお話しします。

海外で気を付けることその1、水です。特に暑い地域に行くとき、冷たい飲み物を飲みたくなるのですが、その中の水が危険です。水はどんな水で作っているかわからないので、危険がいっぱいです。暑くても温かい飲み物か、水なしのビールを頼みましょう。

海外で気を付けることその2、タクシーです。日本ほどタクシーが安全な国はありません。安くしとくか

わが懐かしの恩師

創立当初から「文武両道」の実践に努めてきた明善高校の生徒は勉学同様、クラブ活動にも意欲的に取り組む。五輪選手を育てた水泳部をはじめ、陸上部や野球、剣道、柔道、テニス、バドミントン、ハンドボール部などは全国的にも有名だ。

創立は明治12年。県立久留米中学校としてスタートしたが、そのルーツをたどると、天明3年(1783年)に開設された久留米藩の学問所までさかのぼる。校名に「明善」の文字が付いたのは寛政8年(1796年)。幾度かの変遷を経て明治32年、県立中学明善校と改められました。中学明善校時代の卒業生にとって高良山を仰ぎ、筑後川で舟を漕ぎ、篠山城跡の桜を見て過ごしたことは懐かしい。学制改革によって昭和23年に現校名に。翌24年久留米高等学校と統合され、男女共学校として歩み始めた。

放課後自宅に招き勉強を指導

恵まれた自然環境と共に、教育にまい進した個性豊かな教師は明善高校の財産。師の姿は卒業生の胸に今も鮮やかによみがえる。

「ワンツ」の山口二先生(国語)は、質問されてもきちんと答えられるように、授業の前にはいつも入念な準備をしていた。「同窓会にもよく顔を出してください。退職したらワンツ・ツーン」というラーメン屋を開くと冗談を言っていたので、会うたびにまだですか？と聞いているのですよ」と卒業生は笑顔で話す。

黒岩武道先生(数学)は思いやりがあり、生徒だけでなく、教師からも信頼された。弁論部顧問として活躍。

「ロクさん」「明善ポリス」のニックネームで親しまれた林六郎先生(数学)は何事も積極的に進める行動力があつた。手にはいつもムチや定規を持ち、宿題を忘れた生徒の手のひらをピシッとたたき、厳しい一面を見せた。授業中、問題が解けなかった生徒を自宅に招いてわかるまで教えることも度々あつた。

桑野正夫先生(数学)は兄のような包容力で生徒をリード。野球部顧問として、放課後、ともに泥まみれになりボールを追いかけた。

無遅刻無欠勤で生徒の手本に 「カツチョ」の江崎哲夫先生(英語)は酒好き。授業中にもほのかに酒の匂いを漂わせていることもあつた。しかし、まじめで在職期間中の30年間は無遅刻無欠勤で生徒のよい見本となつた。

阪野勇先生(英語)はバイオリンが趣味。「授業中にもG線上のアリアなどを弾いてくださいました」と卒業生は懐かしむ。

「デン助」の梶原清先生(体育)は張り切つて授業を進めていた姿が印象的。生徒よりも早くグラウンドに出て、「はよーこんか！」と大声を張り上げた。陸上部顧問として活躍。

「アゴちゃん」の中野修吾先生(体育)はサッカー部顧問。OBが作った蹴友会と年2回定期戦を行わせ実力をつけさせた。授業の最初の10分間は説教をするのが常だった。

毎日新聞 平成7年5月26日掲載 より抜粋

ら、そこは知ってるからと、言葉巧みに言い寄ってくるタクシーは、要注意です。私も何度も違う場所而降るされました。私の知り合いは、お金を全部取られた人もいます。

海外で気を付けることその3、現金は出来るだけ持つておくこと。現金は盗まれるからなるべく持たないこと、などという人もありますが、私のは非常用です。普段使うのはカードですが、もし万が一強盗に遭遇したときに渡す為のお金です。最悪の事態になることがあります。また、海外では現金がないと、病院でも治療してくれません。

その4、警官です。日本の警官は優秀で、日本人は警官を無条件に信用しがちな面があります。しかし、海外では警官が外国人にお金を要求することが稀にあります。

海外では自然災害も頻繁に起きます。写真はインドネシアでの一コマですが、洪水は日常茶飯事です。そんな時にはホテルでじっとしていることです。皆さん、ご安全に。



インドネシアで水害遭遇

新しい総会のあり方が生まれつつある

2020年総会実行委員 平成4年卒 山本竜二

我々がちょうど招待状を発送しようとしていた2020年の年初にコロナ禍が始まりました。当時はまだ先が見えず、関東支部の先輩方が総会を通常開催すべきか、縮小開催すべきか、中止にすべきか、など様々な選択肢を議論していたのを覚えています。結果的にはコロナは収まる傾向をみせず、中止にした判断は正しかったと思います。我々の年代はというと、総会中止の連絡を郵送したあとはほとんどやることなく、中途半端な形で実行委員の役割が終わりました。

そして2020年も終わり2021年の準備が進んでいます。実行委員の大事な仕事の一つは、総会を無事終わらせるだけではなく、次年度の企画をすすめる後輩に対して助言することです。しかし、これについても総会を実行した経験がない我々としてはあまりアドバイスできることがありません。歯がゆい思いもあります。これもコロナがもたらした運命だと前向きに受け入れています。

そう、前向きに考えています。2021年はリアルに会場を借りて行う総会とオンライン総会のハイブリッド構成で行う予定です。またリアル会場の方は現時点では参加者が予測できないため、また密をさけるために、規模を縮小して行う予定です(大きな会場を予約して、万が一参加者が少なかったら赤字になるため)。よって、今までと全くちがうノウハウや考え方

が必要になってきます。平成5年卒の後輩たちは新しい試みを成功させるべくチャレンジしています。そこには先輩のアドバイスや経験などはあまり価値ありません。

そしてオンライン総会を開催するとして井上会長を始めとした関東支部幹部のみなさんの判断に大きな希望を感じています。

昭和49年卒特集 「65歳になって思うこと」

上京して46年、久留米には19歳迄しかいなかったが、未だ久留米弁は抜けない。大学、サラリーマン時代の思い出よりも久留米にいた頃のことが多々ある。友達もやはり田舎が多い。学年同窓会は関東支部の幹事以降、毎年やってきたが4人の仲間が旅立っていった。まだまだこれからなのに寂しい限りだ。コロナ禍の中での集まりは今では中々難しいかもしれないがなんとか会えるようにしたいと思っている。

自分自身は嫁さんとも、やりたい事を探して、自分の気持ちに素直にやっていきたいと思う今日この頃である。(牛嶋敏文)

食品業界に身を置いて43年余り、新しいアイデアを商品化する、世の中になく新しいものを作る、最盛期はそうだったところに面白みを感じていました。子供のころ65歳といえれば晩年という感じでしたが、人生100年時代の現代では皆さん働き続けることが当たり前で、私ももう少し頑張ってみようかと考えています。

働き続けるには健康が第一、あちこち痛んできた身体と上手に付き合ひながら、たまに夫婦で美味しいものを食べたり、温泉巡りをしたりすることが今後の楽しみです。(川本公)

昨年は新型コロナが猛威を振るい、気の合った仲間との飲み会も我慢し、都心へ出かけることも自粛する最悪の一年となりました。小郡の実家にも帰れていません。そんななか健康維持のため、毎朝近くの公園でのラジオ体操と1万歩のウォーキングを日課として、マイペースで健康的な年金生活を送っています。気持ちはいつまでも「笹竜胆の旗風に」や「嗚呼青春の饗宴に」と高吟していた頃のままでいたいと思っています。(野口憲二)

40歳を過ぎた人を初老と呼ぶらしい。この感覚から言えば、65歳は、「大老(単なる年寄り)」、或いは「隠居さん」かなと思います。

この歳になれば、目も悪くなり、物忘れも多くなるし、年金も頂けるので、会社を退職し、そろそろ隠居生活も悪くはないかなとも考えます。しかし、まだ身体も動きますし、防災訓練の運営支援や防災講話も行っていますし、引退すると惚ける心配もあるので、引退も

望を感じています。総会に参加するのはおつくだと感じている人や、オンラインに違和感がない若い世代などが思いのほか多数参加するのではないかと予想しています。なんなら北日本や海外など同窓会支部がないところに住んでいる卒業生も参加するでしょう。今年の総会では、新しい総会のあり方が生まれます。

早いかとも思います。

誰が言ったか知りませんが、「50・60歳垂れ小僧、70・80働き盛り、90になりお迎えが来たら100まで待て」との言葉を肝に銘じて、「まだまだ現役」と自分に言い聞かせ、身体が動く限り、仕事に興味に興味を持って頑張りたいと思っています。(澤野一雄)

昨年亡くなった野口久美さんとは、高校時代、一度も話したことはなかった。数十年後の関東支部の同窓会で初めて話すようになり、その博識と、意外なことにマンガおたくであることのギャップがやたらと可笑しく、会って話すのが楽しみなった。(K, T)

改めて、考える事もなく、ただ今日まで、家事子育て仕事と、当たり前のように過ごして来ました。日々何事もなく無事に過ぎて行く事に感謝しつつ、これからも、そうありたいと願うばかりです。今年は、コロナ禍の中特に、強く思いました。(相沢由美子)

気持ちは若いまま変わらなくても、やはり年相応の身体的な衰えです。体力維持のためジムに通っているにもかかわらず、先日自宅の階段で滑って背中左後ろを強打して肋骨にヒビがはいってしまいました。その上、五十肩、いや六十肩で左肩が痛くて腕が上がらなくて、整形外科で運動療法しています。

幸い今のところまだ大病はしていませんが、無理のない程度にほどほどに体を鍛えて穏やかに余生を生きていきたいと思っています。(望木洋美)

明善時代を思い、浮かんでくる景色。緑多い憩いの中庭、語り合いふざけ合った長い渡り廊下、古い書物の匂いの染み付いた心落ち着く図書室。

ちよっと落ち込んだり劣等感にさいなまれたり辛い日もあったはずなのに、温かな大きいものに守られて暢気に幸せに笑っていた時間は浮かびます。

幹事さんに恵まれて、年に2回ほど同期で集まるようになって20年くらい経ったでしょうか。いつも心から笑い合ひ、この仲間と一緒に歳を重ねていける老後って楽しいかと思わせてくれる、大切な心のオアシスです。先に逝ってしまった仲間たちや恩師の先生を時にそっと思い浮かべます。これからはワイワイと賑やかに集まれますように!(M子)

第35回関東支部総会に向けて

総会実行委員 平成5年卒 川島哲也・牛島貴子

2020年、これまでに例をみない新型コロナウイルスの影響を受け、この関東支部総会も中止となりました。今現在、まだまだ先は見通せない状況下ではございますが、中止となった前回幹事学年でいらした平成4年卒の先輩方と協力をして、実施に向け何とか準備を開始致しました。

新型コロナウイルスの影響で、皆さまの生活におかれても、仕事上のみならずいろいろな場面でオンラインでのやりとりが急速に進んだのではないのでしょうか?

今現在も感染者数の増加は落ち着きを見せず、先が見通せない状況下ではございますが、同窓会として、何とか皆さまとの交流の場を確保すべく、井上会長以下皆さまと協議の上、オンライン環境をフルに活用して、準備、当日の両面について、検討を進めております。もちろん、オンライン環境以外での対応も並行して進めて参りますが、諸先輩の皆さまにおかれましては、オンラインで準備を進めることで、これまでに同窓会幹事で課題となっていた、皆様の名簿管理のデジタル化など、この対応によるプラスの側面にもご理解を賜りますよう、ご協力のほど、よろしくお願いたします。なお、新型コロナウイルスの収束状況如何によつては、2021年の同窓会の開催についても、その実施判断については、適宜皆さまに展開して参る所存です。

○関東支部役員			
会長	井上 彦 (S51)	樹 彦 (S51)	
副会長	土肥 義政 (S31)	直人 (S41)	
	内田 啓 (S41)	古賀 務 (S45)	
	古賀 池 (S51)	友池 哲雄 (S45)	
代表幹事	山古 尚美 (S47)	山古 美子 (S60)	
副代表幹事	古賀 秀 (S55)	古賀 美 (S61)	
事務局局長	五十 伊東 (S31)	五十 信一 (S41)	
事務局次長	井手 泉 (S54)	井手 勉 (S31)	
ゴルフ委員長	伊東 久保 (S41)	伊東 喜 (S41)	
U30委員長	古賀 大 (S41)	古賀 松 (S41)	
監査役	古賀 平 (S41)	古賀 別 (S41)	
顧問	古賀 府 (S41)	古賀 戸 (S41)	
相談役	古賀 瀬 (S41)		

(2020年3月1日現在)

編集後記

昨年はコロナ禍で支部総会をはじめ同期会も開催できず、投稿記事も少なかった。このため、高校や上京時の思い出、故郷や海外出張での出来事など幅広い記事を募集した。亡き兄の夢を実現し劇団で活躍する同窓生感動した。新旧総会実行委員からはアフターコロナを想定し総会の新しいあり方を幹事会幹部とともに熟慮した様子綴ってくれた。定番となった高齢者入り65歳特集記事、49年卒からは仕事一段落、元気に過ごす秘訣など語ってもらった。次号ではコロナを克服しイベント記事、明るい話題が再来すること期待したい。(内田)